

★コロナ関連学校方向性ニュース

生徒のみなさんへ

13日・14日・15日と分散登校の形で全校生徒のみなさんに登校してもらい、教科書・副読本などの配布を行いました。今日はその教科書・副読本等についてお話しします。以下4つの段階に分けて指示しますので確実に実施してください。

1. 配られた教科書・副読本が全てあるか確認してください。(ただし、一部教科に関しては、荷物の多さから判断して、未配付にしたり、教室においてかえてもらったりしています)
2. 配られた教科書・副読本のページがとんでいたり、破れていたり、汚れていたりしないか確認してください。
3. 配られた教科書・副読本・購入したノート、スケッチブック・絵具セット・体操服・上靴・体育館シューズ・くつ袋等に、文字が消えにくいマイネーム等でわかりやすく新しい学年・学級・番号や名前を記入してください。
4. 配られた各教科の教科書を飛ばし読みでもいいので最後まで読んでみましょう。(予習のため・読むことの強化のため)



★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

「読むこと」のすすめ

読むことの重要性は、昔から言われています。読むことが大事な理由はたくさんあると思いますが、私は次の3つを考えます。



1. 「脳を活性化すること」

映像を見るのと違って、読書することは様々な意味で脳を動かします。

「^{あらかみ}荒海や ^{さど}佐渡に^{よこ}横とう ^{あま}天の^{かわ}川」という^{まつおばしろう}松尾芭蕉の句があります。

この短い俳句から、人は様々なイメージを読み取ります。
あなたはどんな情景が浮かびましたか？

荒れ狂う日本海の荒波の向こうには佐渡ヶ島がある。空を見上げると、白く美しい天の川が、佐渡の方までのびて横たわっていて、とても雄大だ。
季語：天の川(秋)

一般的にはこの句は上記のような解説になると思うのですが、この句を読んだ人それぞれの感じ方があります。5・7・5という短い俳句の中から様々なイメージを読んだ人なりに膨らませるのです。見る側・読む側にとって、これは映像や写真以上の想像力(変換力・理解力)が必要となります。数年前にはやった「君の名は」という作品を、私は最初本で読んで、そのあと、アニメで観ました。そうすると、本で読んだイメージとアニメで観たイメージが少し違っていたりしました。本で読んだときの方が、「クイズを解いている時のような感覚」で、ここはこうかな？と脳内でいろいろな想像をしていました。アニメの方は、直接観る動画や音の効果もあって、クイズでいうと「答えを教えてもらっている」感覚がしました。もちろん、映像や画像によっても想像力が働く部分は多いのですが、より高度に想像力を働かせるのは、文章を読んだときのように思います。「文章から想像する」という不便さゆえに、より高度な脳の働きを要求されているように思います。「読むこと」を通して、みなさんの脳を活性化しましょう。

2. 「情報を GET すること」

これからの時代、情報量が勝負を分けると言われます。幅広い情報を素早く収集し、正しく取捨選択し、分析すること。たとえば、このコロナウイルスの件でも、大阪・日本・世界での感染者数・死亡者数、また、その対策などの情報や、感染者はどういう経路で感染して、感染した場合どういう対応がとられているのかなどの情報を幅広く収集して、そこに自分自身の状況をあてはめて、自分の行動を決めます。「感

染者はどのような初期症状があるのかという情報を知る」⇒「自分自身が発熱している」⇒「2週間の自宅待機と同時に保健所に相談」というように行動の方向性に繋がっていくのです。多様性(様々な考え方がある世の中)・変化の激しいこれからの時代だからこそ、情報収集は必要不可欠なことです。「読むこと」で、大切な情報を収集できるようにすることが重要です。また、情報収集にあたっては、世界に目を向けての横の情報収集の幅を広げるだけでなく、過去の事実・最新の情報・未来への予測なども含めた縦の情報収集もしていきましょう。

3. 「自分の考えや行動につなげること」

2でいう情報を得て、1で鍛えた脳で分析して、あなた自身の考えを持つことが重要です。情報を収集しているだけでは、「読んだこと」を十分に使いこなせたことにはなりません。「本を読んでどう感じたのか?」「読んだことに関するあなた自身の考えは何か?」「そのことから、これからの自分のどういう行動につなげるのか?」ということが重要だと思います。

たとえば、読んだことをもとに自分の中で意味解釈し、そこから自身の考えを生み出し、この自宅待機の時間に家族の人と共有してみてはいかがでしょうか。物事に共感することはもちろん大切ですが、物事を批判的観点で見ることにも時には必要です。自分の意見として自信をもって発信できるように、今のお家での貴重な時間を使って、家族とたくさん話してください。

★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

アラブ首長国連邦の紹介



1960年代のアラブ首長国連邦

アラブ首長国連邦という国の名前より、ドバイという都市の名前の方が有名かもしれません。アラブ首長国連邦の周りには、サウジアラビア・イラン・イラクなどの大きな国が存在し、小さい国はそれらの大国に飲み込まれてしまいます。それで、小さい7つの国が1つに集まって1つの国を結成したのです。それがアラブ首長国連邦です。つまり、ドバイもアブダビも元々は独立した小さな国(首長のおさめる部族のようなもの)だったのです。

さてドバイというと、ものすごい高層ビルが立ち並び、石油で儲かっている中東の超お金持ちの国というイメージですが、実は、ドバイの主力産業は石油ではありません。昔はドバイも石油が出ましたが、石油の枯渇を見越して産業の転換をしました。現在石油で潤っているのは首都アブダビで、今のドバイの主な産業は、貿易・観光です。アブダビが首都東京のような中心地。そして、ドバイが大阪のような商都といえるかと思います。

今でこそ高層ビルが並ぶ近代都市ですが、60年ぐらい前までは、見渡す限り砂漠といってもよいような場所でした。元々の産業としては、ダウ船という小型中型の船に乗っての漁業や海に潜って天然真珠をとる生活をする人。ヤギやラクダを連れて、砂漠の中の草地を求めて移動しながら生活する人が主で、生活状況は大変貧しかったようです。王様の親族ですら、カーテンを見たことがない、バスタオルを見たことがないという生活状況でした。学校はあったものの、登校した生徒が最初にするのは、遠くにある井戸まで歩いて行き水を汲んで1日の飲み水を学校の貯水槽にためることでした。猛暑の中、重労働してようやく勉強です。医療機関も充分ではなく、やはり王様の親族ですら満足な治療を受けることができませんでした。災害時に飛行機から毛布や衣類と共に落とされてきた物資に缶詰があったのですが、開け方を知らず無駄となったようです。このように、大変貧しかった生活を一変させたのが魔法の水「石油」でした。 つづく



現在のアラブ首長国連邦

